1 同志社大学

■大学所在地：京都府

福祉専門職と共に進める『誰一人取り残さない防災』

研究目的

社会の根底にあるさまざまな障壁を越えて、当事者、地域、社会の力を結集した事業モデルを確立し、全ての人たちの被害を最小限にとどめ、命を守るインクルーシブ防災の全国的な実装を目指す。

研究内容

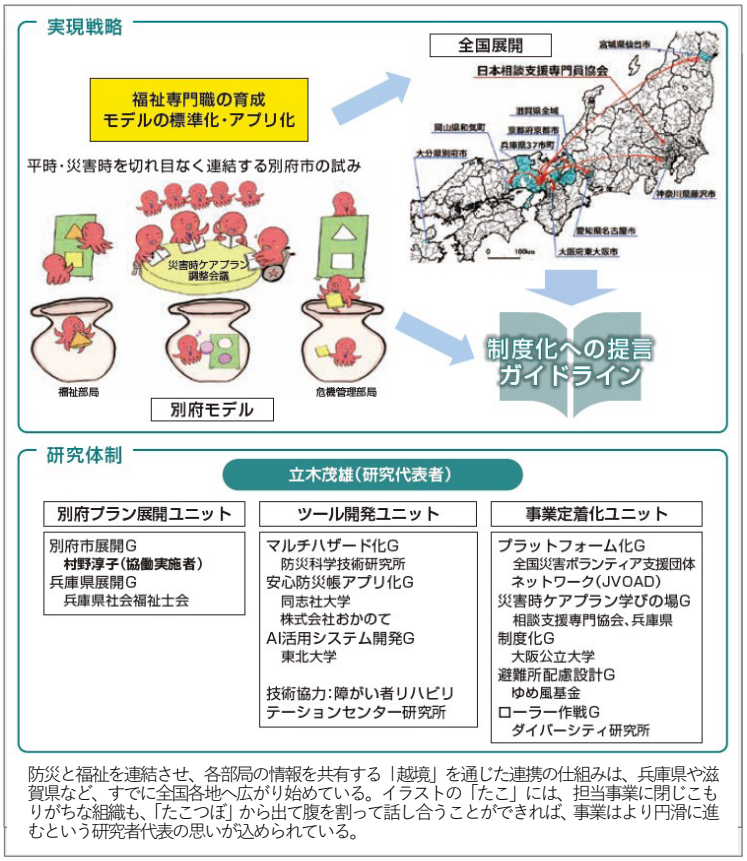
平時のサービス等利用計画やケアプランを策定する相談支援専門員や介護支援専門員が、災害時の個別避難支援計画についても、障がい当事者と近隣住民との協議をもとに災害時ケアプランとして作成に関与するとりくみ(別府モデル)の社会実装を図り、2021年5月の災害対策基本法の改正に反映させた。

研究成果

福祉専門職向けの4冊にわたるi-BOSAIブックレットの刊行、研修用映像作成とそれを用いたe-ラーニング教材開発、「自分でつくる安心防災帳」のアプリ化も実現した。これらの教材やツールを活用して、兵庫県ではこれまでに約3,000名近い福祉の専門家に対する研修を終えている。さらに、内閣府中央防災会議「令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難に関するサブワーキンググループ(SWG)」メンバーとして、福祉専門職と共に作る個別計画策定の議論をリードし、災害対策基本法等の一部改正(2021年5月20日施行)では、本事業が提案する災害時ケアプランを基本とする個別避難計画の作成が全ての市区町村の努力義務とされた。

i-BOSAIの教材は書籍のほか、オンライン研修用にも編集され、受講者へ公開されている（図左）。

チェックキットの説明に沿って情報を入れるだけで、避難行動要支援者自身の状態や必要な備え、支援ルートを可視化できる「自分でつくる安心防災帳」のアプリ化も行った（図右）。



防災と福祉を連結させ、各部局の情報を共有する「越境」を通じた連携の仕組みは、兵庫県や滋賀県など、すでに全国各地へ広がり始めている。イラストの「たこ」には、担当事業に閉じこもりがちな組織も、「たこつぼ」から出て腹を割って話し合うことができれば、事業はより円滑に進むという研究者代表の思いが込められている。

今後の展望

『どんな人も誰一人取り残さない』防災へと支援モデルの枠組みを広げるとともに、世界にも展開していく。すでに英語版（タイ・アジア太平洋障害者センター刊）やスペイン語版（JICA エクアドル事務所刊）i-BOSAI ブックレットを出版し、JICA と連携してエクアドルやASEAN 諸国、トルコの専門家研修もおこなっている。

防災をどのように考えるのか、あるいは私たちはそれぞれの立場から要支援者とどのように関わることができるのかを学べるサイトとして、2020年に作成された。専門職向けの研修資料や、災害時ケアプランの見本なども見ることができる。

研究者紹介　社会学部教授　立木 茂雄

・**専門分野**：福祉防災学・家族研究・市民社会論

・**経 歴 等**：関西学院大学社会学部卒。同社会学研究科修士課程修了後、カナダ政府給費留学生としてトロント大学大学院に留学し MSW と Ph.D.修得。

・**活動資金**：

【JST RISTEX】SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム（ソリューション創出フェーズ）：
福祉専門職と共に進める 「誰一人取り残さない防災」の全国展開のための 基盤技術の開発 （2019～2023）

【科研費】基盤研究 A（一般）：インクルーシブ防災学の構築と体系的実装 （2017～2021）

・**連 携 先**：大分県別府市、兵庫県社会福祉士会、滋賀県、滋賀県高島市、日本相談支援専門員協会、防災科学技術研究所、九州大学、東北大学、ESRI ジャパン、アジア太平洋障害者センター、国立障害者リハビリテーションセンター研究所、日本総合システム株式会社、JVOAD、新潟大学、大阪公立大学、ダイバーシティ研究所、NHK 厚生文化事業団等